



静岡県 陸協 会報

第 35 号 (2024年 2 月 25 日 発行)
一般財団法人
静岡県陸上競技協会

〒420-0032
静岡市葵区両替町2-3-6 (2F)
TEL・FAX 054-253-9801

パリ五輪の年がスタート

理事長 川口雅司



2024年が明けました。本県選手が『静岡』のユニフォームで出場する大会は都道府県対抗女子駅伝からスタートしました。最終順位は17位でしたが四区の途中でトップに立つなど県民をワクワクさせるレースをしてくれました。続く男子駅伝は24位と高速駅伝への対応を迫られる結果となりましたが、男女とも中学

生区間を中心に精一杯の走りで襷を繋いでくれました。

昨年末の12月10日、10000mの日本選手権が国立競技場で開催されました。男子は塩尻選手ら三人が日本記録を更新する素晴らしいレースでした。本県出身選手は日本記録で二位に入った太田智樹選手(浜松日体高出身)、六位の大川歩夢選手(伊豆中央高出身)など七名がエントリーされていました。しかし、その中で静岡登録の選手が一人もいなかったのが残念ながら現状でもありません。

パリ五輪が七月末に開幕します。一人でも多くの本県選手が五輪の舞台で活躍できるように全力で後押ししていきます。また、5月3日の静岡国際終了後にエコパで男女10000mの日本選手権を開

催します。前回のようエコパの地で本県選手が五輪出場権を獲得してくれることを期待しています。静岡陸協として素晴らしい大会になるよう運営したいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

高校・中学とも年明けから選抜合宿を中心とした強化練習会が行われました。選出された競技者だけでなく、日常の練習から目標を持って取り組むために、種目別に必要な能力の達成目標を強化委員会のHP上に提示しました。自己記録の向上を目指し、また東海・全国の場で活躍する自分をイメージして『静岡から世界へ』意欲的に取り組んで欲しいと思います。

小学生には『バランス良く』陸上競技を『楽しんで欲しい』と願っています。今年から100m、80mH、走高跳、走幅跳、ジャベリックボール投と男子1500m女子800mの6種目を設定し、年間をとおしてバランス良く挑戦してもらいたいと考えています。それぞれの種目を得点化して、6種目の合計得点をランキングHPにあげます。六種目すべてに挑戦できなくても、5種目・4種目の集計も行います。指導者の方々には、小学生がひとつの種目に特化することなく、できるだけ多くの種目に楽しく挑戦できるように後押しをしていただくとお願いいたします。



中学校の部活動は複雑に変化しています。その中で、それぞれの市町において今まで以上に小中学生を育てる指導者が必要になります。同時に指導者の資質向上も求められます。保護者の立場からいうと『公認指導者が充実しているチームに安心して子どもたちを預けたい』という時代が数年前には来ると思います。今年、部活動の指導者も含めて『スタートコーチ』や『コーチ』の資格を積極的に取得してもらいたいと思います。

浜松市立高等学校

陸上競技部監督

杉井将彦

浜松市立高校は平成17年に男女共学となり、私はこのタイミングで赴任した。この共学からの2年間は、長く本校陸上

競技部の顧問であった和田隆保先生にサポートしていただいた。この2年間を大きな問題も起きず過ごすことができたこ



写真は男子初優勝の大阪インターハイで部旗が掲揚された時のもの

とは和田先生への感謝しかない。そしてこの時間があって、創部3年目の男子が佐賀インターハイで総合優勝をすることができたと考ええる。

本校は大学進学（国公立大学）への意識が高いことから、下校時間が19時となっている。この下校時間を守るため練習は16時半から18時半まで、また朝練習は自由参加など学習環境の確保を優先している。その一方で、トレーニングの質

を高め部員全員が一定レベルに到達することを目標に指導を徹底した。とくに男女共学1期生は3年間のトレーニングの質・量そして技術の積み上げができたこ

とが大きく、3年目の佐賀インターハイで男子が総合優勝、またこの時には男子棒高跳びで笹瀬弘樹選手が日本高校記録を樹立した。（男子は平成25年にも学校対校において5位に入賞している）その後は女子部員の活躍が目覚ましく、沖縄

インターハイで4×400mRでの優勝。新潟インターハイで総合優勝校と1点差の3位。翌年には大分インターハイ

で念願の総合優勝をすることができ、男女ともに1回ずつ全国高校総体総合優勝を果たすことができた。（平成17年から

の19年間で、県高校総体学校対校総合優勝男子3回・女子13回、東海高校総体総合優勝男子1回・女子3回、全国高校総

体総合優勝男子1回・女子1回）そして活躍の場は高校総体から日本選手権にも広がり、4×100mR・4×400mRで入賞し、平成25年の日本選手権の4×400mRにおいて優勝した。また個人でも400mで平成25年の杉浦はる香（現日本ジュニア記録での優勝）、翌26年には松本奈菜子（現、東邦銀行）が優勝している。

ここ数年は長距離選手の活動に結果が出ているが、令和3年に女子が全国高校駅伝に初出場し、今年度は2回目の出場を果たした。

今後も公立の進学校として陸上競技部の目標を掲げるとともに、高校生として将来の目標を叶えることができるよう、高いレベルでの文武両立を目指した活動を続けていきたいと考える。

「STAR」浜松市立高校 陸上競技部のチーム目標

スター選手となることを目指し、そのアルファベットに意味を持たせることでチームの目標としている。

S...sportsmanship 正々堂々としている
T...teamwork 協力

A...attitude 態度・姿勢

R...respect 尊敬・尊重



特別国民体育大会
燃ゆる感動かごしま国体
総合開会式

2023/10/07



少年共通
走り幅跳び
5 m 88
7 位 橋本詩音
(静岡雙葉高校)

燃ゆる感動
かごしま国体
天皇杯26位 皇后杯30位

令和5年10月、鹿児島市の白波スタジアムで行われ、今回の国体は特別国体として実施された「新型コロナウイルスで2020年からの延期のため、回数をつけない大会」。また名称も最後の国体として幕を閉じる。

令和6年からの佐賀県を中心に行われる大会は「国民スポーツ大会」と改称し、今後、実施されていくことになる。

今回の本県入賞者は次のとおりである。(頑張りました)

成年男子	800 m	1分49秒04	5位	前川優月	(SMILEY)
やり投げ	77 m 64	2位	清川裕哉	(東海大学)	
少年B	100 m	10秒72	3位	関木悠喜	(浜松工業高校)
成年女子	800 m	2分07秒09	6位	仲子綾乃	(慶応義塾大学)
棒高跳び	3 m 80	5位	杉本 彩	(常葉大学)	
走り幅跳び	6 m 12	5位	小林 聖	(SMILEY)	
100 m	11秒91	8位	佐野柚梨	(静岡市立高校)	
やり投げ	46 m 54	2位	貴家ありさ	(伊豆中央高校)	



全国都道府県対抗駅伝大会

女子 1月14日(京都)第42回大会成績 17位

区	距離	選手名	所属	記録	区間順位	通過順位
1区	6キロ	牛 佳慧	日本郵政グループ	19分28秒	6位	6位
2区	4キロ	兼子心晴	城西大	13分6秒	18位	11位
3区	3キロ	遠藤蒼依	日大三島中	9分16秒	1位	2位
4区	4キロ	斎藤みう	日体大	13分19秒	13位	2位
5区	4.1075キロ	大谷芽以	浜松市立高	14分9秒	37位	11位
6区	4.0875キロ	沢田結弥	浜松市立高	13分20秒	5位	8位
7区	4キロ	鈴木結莉乃	浜松工高	13分16秒	17位	9位
8区	3キロ	河合柚奈	浜松天竜中	10分17秒	10位	8位
9区	10キロ	依田来巳	大阪学院大	34分18秒	36位	17位

男子 1月21日(広島)第29回大会成績 24位

区	距離	選手名	所属	記録	区間順位	通過順位
1区	7キロ	村木風舞	御殿場西高	20分54秒	33位	33位
2区	3キロ	大沼光琉	沼津市立高中等部	8分41秒	9位	29位
3区	8.5キロ	尾崎健斗	明大	24分33秒	32位	31位
4区	5キロ	山本拓歩	浜松日体高	15分4秒	24位	30位
5区	8.5キロ	岡元快生	浜松開誠館高	26分34秒	35位	34位
6区	3キロ	永嶋駿樹	静岡安東中	8分54秒	8位	32位
7区	13キロ	西沢侑真	トヨタ紡織	38分7秒	10位	24位



静岡市青少年交流事業 台湾遠征に参加して

静岡市立高校 望月 勇志



2023年10月31日から11月4日まで4泊5日の日程で、静岡市が主催する事業に参加させていただいた。この事業は、東京オリンピックに際して、台湾陸上ナショナルチームが静岡市をホームタウンとしたことから、台湾陸上協会と静岡市が様々な交流をしていくこうとして起こされた事業の一つである。2018、2019年と2年間行われたが、新型コロナウイルスの影響により3年間見送られていた。しかし本年度、関係各位のご尽力により再開することになった。過去2年は20名の派遣であったが、今年度は様々な理由により10名と縮小されたが、将来が期待される中部地区の精鋭を連れていくことができた。高校生は、ほとんどが初めての海外であり、不安

があったと思われ、競技会の結果は、素晴らしいものであった。過去2年の参加形態は、台湾の全国大会の中に特別レースを組み込んでいただき、参加し友好を深めるものであったが、今回はその大会に台湾の高校生と同じ立場で出場するもので

あった。そんな真剣な大会に日本の静岡からふらっと来た我々が出場しているものか戸惑いがあった。もし日本のインターハイに交流として他国の選手が出場することを考えると、複雑な思いがした。

出発日、朝7時に静岡駅をバスで出発し、現地（台南市）のホテルに着いたのは、夜9時。ホテルに着いてからコンビニで夕食を購入し寝て、翌朝7時には競技会に向け出発するという日本では経験することがないようなスケジュールであった。しかしながら、高校生は素晴らしい競技をしてくれ、たくましさ、頼もしさを感じさせてくれた。スプリント・ハードル陣は、自己ベスト記録を出したり、それに匹敵する記録を出すものばかり。幅跳陣は慣れないチップのピットや砂場、言葉がわからない中で競技に苦戦しながらも調整を加え、台湾の選手とコミュニケーションをとりながら競技していた。やり投陣は、使いこなせるやりが準備されていない条件で競技し、最終投擲では観客に拍手を要請する度胸を見せてくれた。初めての異国の地、調整も不十分なままの出場となり、良い結果は望んでも難しいと予想していたが、それを覆す競技ぶりであった。出場した個々の選手は、結果に対して彼ら彼女なりに思うところはあったと思うが、指導者目線からは、立派で誇れるものであったと確信している。そして、寄せ集めのチームであったが、この短期間でチームとなる場面をみせてくれた高校生の力を見ることができた。

過去とは違う参加形態であったが、今回はさらに選手のためになったと思っている。トラブルやケガがなかったから、こんなことが言えることも十分承知している。そして、競技会参加だけがこの事業の目的でないことも。しかしながら、様々な条件、制約下でこの事業を実施していることを考えると、今回の遠征は大成功だったと思う。

最後に、実施までこぎつけてくれた静岡市スポーツ交流課、支援していただいた中部陸協に感謝の意を表し、報告としたい。

第24回静岡県市町対抗 駅伝競走大会

駅伝競走大会

第24回静岡県市町対抗駅伝競走大会（静岡陸上競技協会、静岡新聞社・静岡放送主催、県、県教委、県スポーツ協会共催）が静岡市内で行われた。

市の部は御殿場市が4年ぶり5度目、町の部は長泉町が11年ぶり9度目の優勝を飾った。2位は浜松市北部と清水町、3位は浜松市南部と吉田町だった。



〔編集〕

静岡陸協広報委員会・静岡陸協事務局
水谷陽介（編集・文責）
橋本美智夫（編集委員）

（印刷・大日三協株）